

第4期

麻生区区民会議報告書

～人と人と心をつなぐ地域づくり～

表紙：区民会議委員がデザイン

平成26年6月

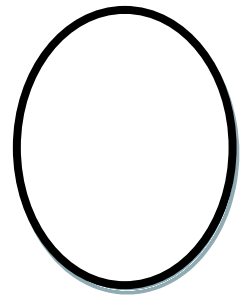
麻生区区民会議

第4期区民会議報告書の刊行によせて

第4期区民会議の2年間にわたる活動の報告書を、ここにお届けします。
麻生区区民会議は・・・

平成26年6月

第4期麻生区区民会議
委員長 菅原敬子



目 次

第1章	麻生区区民会議の概要	1
	1. 麻生区区民会議とは		
	2. 第1～3期区民会議の審議の流れ		
第2章	第4期区民会議について	4
	1. 審議課題の選定と審議の流れ		
	2. 会議の構成と役割		
第3章	各部会の審議と取組みについて	5
	1. 企画部会		
	2. 安全・安心のまちづくり部会		
	(1) 背景		
	(2) 検討経過		
	3. 若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会		
	(1) 背景		
	(2) 検討経過		
第4章	区民会議フォーラム・あさ子育てフェスタについて	●
	1. 区民会議フォーラム～大地震から助かる命を守る～		
	2. 第1回あさ子育てフェスタ		
第5章	提言	●
	1. 提言		
	2. 第4期を振り返って		

【資料編】

- 1 第4期区民会議委員・参与名簿
- 2 第4期区民会議の活動の記録
- 3 第4期麻生区区民会議関連資料
- 4 区民会議ニュースと広報紙掲載記事

第1章 麻生区区民会議について

1 麻生区区民会議とは

川崎市では、市民の参加と協働によって暮らしやすい地域社会を築いていこうという考えのもと、平成17年に「川崎市自治基本条例」を制定しました。

区民会議は、この条例が目指している「市民自治によるまちづくり」を進めるために平成18年4月から各区に設置され、麻生区でもこれまで4期（1期2年）にわたって活動してまいりました。

平成24年7月から始まった、今回の第4期区民会議では、区民による区民のための身近な会議になるように、課題の選定から提言に至るまで、区民が直面している問題を常に意識し、委員20名全員が一丸となって審議を進めてまいりました。

また、全体のテーマとして「人と人と心をつなぐ地域づくり」を掲げ、ヒアリング調査やモデル事業の実施など、机上の会議に留まらず、様々な実践的手法を取り入れ、区民や市民団体等、多くの人の声を聴き、人とのつながりを通して、地域課題の解決策を検討し、平成26年6月、提言に結びつけました。




区民：多くの区民の方に、区民会議で企画したフォーラムやフェスタ等に協力、参加頂きました。また、モデル事業、ヒアリング調査では、多くの貴重な意見を頂きました。

委員：第4期麻生区民会議は、各分野からの団体推薦7名・公募6名・区長推薦7名の合計20名の委員で組織されました。（資料P●参照）

参与：麻生区選出の市議会議員、県議会議員は、区民会議の参与として、全体会議に出席いただき、調査、審議に必要な助言を頂きました。

区長：区民会議から解決策の提案を受け、今後、区民の自主的な取組、区民と区役所の協働、関係局区の調整、他の行政主体との連携等によって、解決を目指していきます。

2 第1～3期区民会議の審議の流れ

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第1期</p>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; background-color: #002060; color: white; padding: 10px; border-radius: 15px; margin-right: 10px;"> 心響きあう地域づくり </div> <div style="border: 1px solid #002060; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> 地域のつながり「あいさつ」がはじまり </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロールの支援の検討 (ベストや腕章等の貸与) ・冊子「あいさつが交わし合える地域づくり事例集」の作成(第2期で実施) 
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第2期</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid #002060; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 市民活動推進 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども文化センター」について市民活動拠点としての視点からヒアリング調査等の実施 ・積極的な広報、各施設間の連携の方法を検討 ・区民が利用しやすい施設運用の検討 </div> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid #002060; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 文化芸術のまちづくり </div> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎・しんゆり芸術祭2009開催を受け、「市民参加の芸術祭」の取り組みを検討 ・絵画展の開催や美化清掃活動に参加  </div> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第3期</p>	<div style="text-align: center; background-color: #002060; color: white; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 人と人と心をつなぐ地域づくり </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid #002060; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり </div> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展、近隣関係の希薄化などを受け、地域でささえあうコミュニティシステムの視点からヒアリング調査等を実施 </div> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid #002060; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり </div> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の機能や中心となる担い手など、芸術・文化のまちづくりの形を検討するため、区内の文化芸術団体(8団体)にヒアリング調査等を実施  </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <div style="background-color: #002060; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 提言 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に情報を届ける「広報活動」 2. ささえあい活動の運用・展開・仕組みづくりなどによる「地域の絆づくり」 3. 「(仮称)成人学級推進委員会」の設置などによる「担い手の発掘と育成」 </div> <div style="width: 45%;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化振興等の調整・相談機能を担う「文化担当官」の設置 2. 地元の芸術家や団体等のネットワーク強化を目的とした「(仮称)麻生文化会議」の設置 3. 「にぎわい」が共生する街並みの実現のために「川崎市都市景観条例の見直しと弾力的な運用」 </div> </div> </div>

高齢者が輝く地域づくり

- ・高齢者の地域参加をテーマに「老人いこいの家」の活性化案を検討
- ・「老人いこいの家」と「老人福祉センター」の愛称を募集

※「いこいの家」、「いきいきセンター」の愛称が選定



地元農産物と地域交流

- ・区の特性である「農」に着目し、区内小学校の食育担当の取組み状況等、学校と地域との連携等について調査



異世代間の交流

- ・専修大学、保育園、高齢者施設と協働して、世代間の交流を実施
- ・「エコバックづくり」や「エコかるた」による交流会の実施



エコのまち麻生の推進

- ・レストランあさおでモデル事業の実施
- ・生ごみ堆肥等で作った花や野菜の写真展の開催
- ・生ゴミリサイクルと地産地消フォ



環境教育

- ・身近な地域から地球温暖化防止を進めるため、区内の取組み事例等を調査
- ・学生向けの環境学習資料「麻生区エコカルテ」を作成し、区内小中学校に配布

循環型のまち ・生ごみリサイクル

- ・区民が実践できる「ごみの減量」や「リサイクル」に着目し、市民アンケートや先進自治体へのヒアリング等を実施。写真展、モデル事業を開催



グリーンアップ ・里山ボランティア

- ・麻生区の特徴である緑の減少をふまえ、これまで手つかずだった区内緑地について、市民ボランティアの力を活用しての保全活動を実施



1. 「生ゴミリサイクル講習会」の定期開催
2. 「写真展」の継続実施
3. 資源循環に関する区独自の広報
4. 市民農園の優先枠設置
5. 市民と農家が直接つながる「あさお広場(ファーマーズマーケット)」の開催

1. 地域に限定されないで区の緑を保全管理する団体の立ち上げと、地元住民へ管理を引き継ぐための「里山ボランティア」の構築
2. 「麻生区里山ボランティア事業」の定着発展と保全活動を通じたコミュニケーション

第2章 第4期区民会議について

1 審議課題の選定と審議の流れ

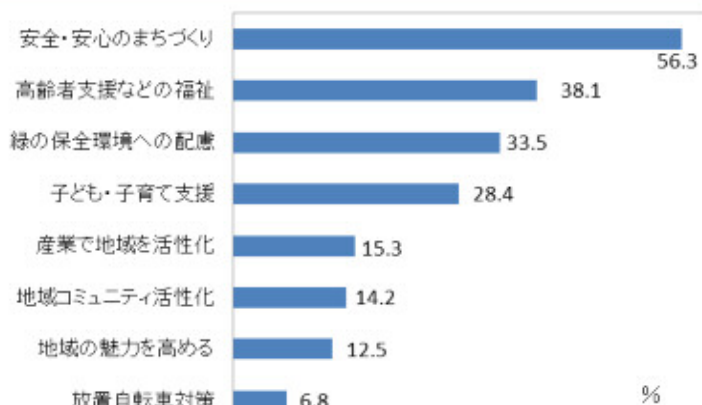
ステップ1

地域課題の把握・整理

H24.8~9

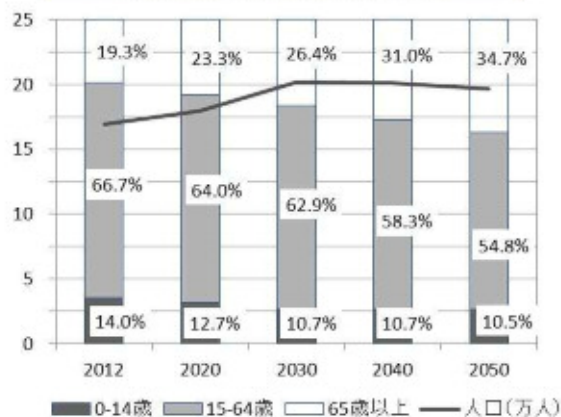
第4期の区民会議の審議テーマは、企画部会が中心になって、市民アンケートの結果や区の統計等を参考に検討し、区民にとってより身近な課題を抽出しました。

区民会議で取り上げてほしい地域の課題（麻生区民回答）



※平成23年度川崎市民アンケート

麻生区年齢別将来推計人口



※総合企画局データを参考

- 安全・安心のまちづくりは、市民アンケート結果により、区民の最も関心のあるテーマ。委員の関心も高い
- 震災対策が進んでいる部分とそうでない部分がある

(目標・方向性)

- 防災対応や避難対策などの検討も必要
- 災害対策をコミュニティづくり、町会との絆づくりに活かす
- 小地域コミュニティづくりを目指す

- 将来、高齢化・若者減少の加速が予想される
- 区内では開発行為が進んでいる(目標・方向性)
- 今から若者が住みたくなるまちづくりが必要
- 文化芸術振興による魅力づくり
- 若者が住みたくするためには、子育て支援も必要
- 芸術・文化と福祉が共存したテーマとして審議

ステップ2

審議テーマの決定

抽出された地域課題を元に、さらに慎重な検討を重ね、区民にとって特に関心が高く、特に対策が必要な2つの審議テーマを決定しました。また、これらを含む全体テーマとして、「人と人と心をつなぐ地域づくり」を掲げました。

人と人と心をつなぐ地域づくり

安心・安全の
まちづくり

若者が住みたくなる
魅力あるまちづくり

20名の区民会議委員は審議テーマごとに「安全・安心のまちづくり部会」と「若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会」の2つの専門部会に分かれ、約2年にかけて、調査、審議しました。

区民会議フォーラムやあさお子育てフェスタの開催の他、ヒアリング調査やモデル事業を積極的に進め、多くの区民や市民団体の声を聴き、審議の充実を図りました。

区民会議運営や広報活動を担う「企画部会」では、地域情報紙と連携し、区民会議の認知度向上のためPRを行いました。

企画部会と各専門部会を毎月開催し、勉強会や協力者への説明会も交えながら、区民や地域に密着した調査を進め、中身のある議論と実践を重ねました。

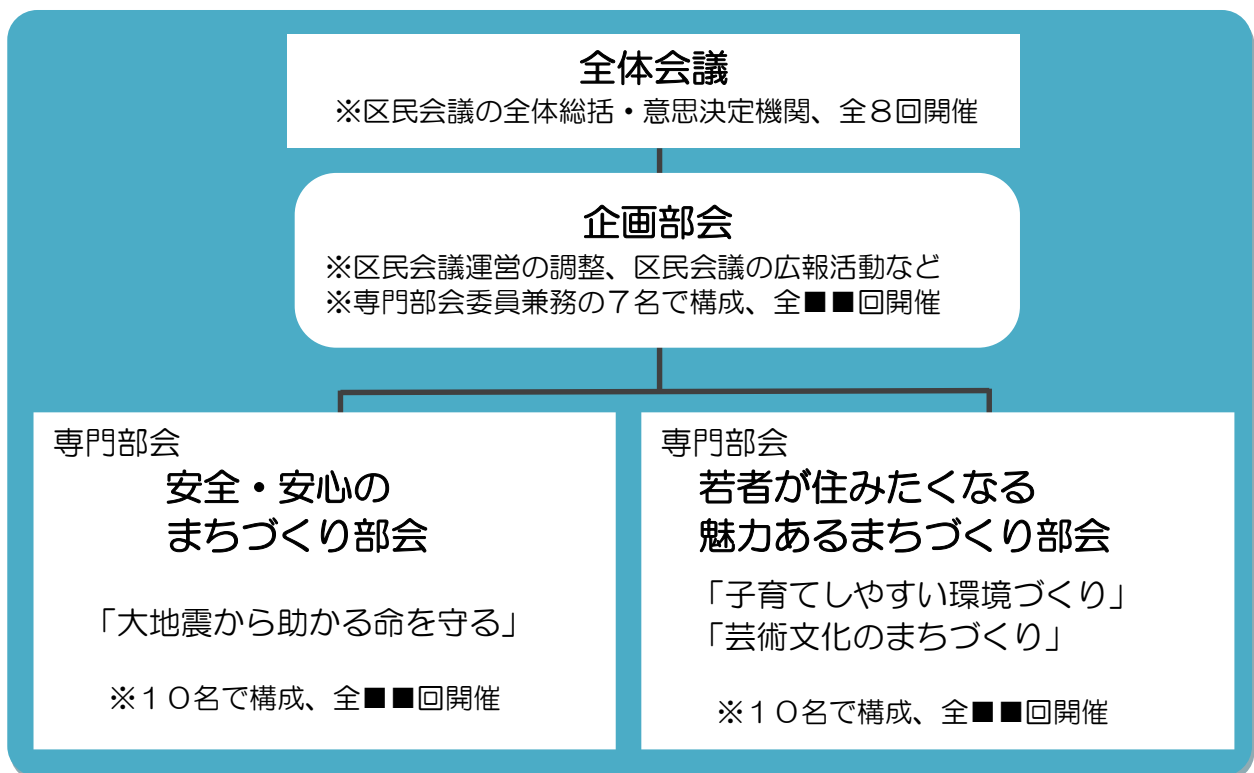
第3章 各部会の審議と取組について

第4章 区民会議フォーラム・あさお子育てフェスタについて

2年間の調査審議の集大成として、提言のとりまとめを行い、区長へ提言しました。

第5章 提言

2 会議の構成と役割



第3章 各部会の審議と取組みについて

1. 企画部会

企画部会は委員長や各専門部会長等を含む7名の委員で構成され、毎月第一月曜日に会議を開き、次のことを検討しました。

- (1) 審議・調査・提言すべき課題の整理
- (2) 区民会議（全体会議・各部会）の運営
- (3) 広報・広聴活動（PR活動・区民会議ニュース等）
- (4) 区民会議フォーラム・あさ子育てフェスタの開催
- (5) 区民会議報告書の作成



(1) 審議・調査・提言すべき課題の整理

区民からのアンケート結果をもとに、区民の関心に合致している地域課題を抽出し、入念に選定を重ね、それぞれの課題について、二つの部会の立ち上げに取り組みました。

(2) 区民会議の運営

各部会の審議や進行状況を、毎月確認する機会を設けました。

お互いの部会の取り組み状況について意見を交換し、各部会の審議の充実を図りました。

また、企画部会が区民会議全体の舵取り役を担うことで、委員間の情報共有（意思統一）が図られ、効率的な運営となりました。

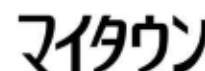
(3) 広報・広聴活動

区民にとって区民会議が身近な会議になるよう、積極的な広報広聴活動を展開しました。

ア. PR活動

次のとおり多角的なPR活動を行い、会議の傍聴の呼びかけ等を行いました。

- ・区内の各地域情報紙（メディ・あさお、タウンニュース、マイタウン）に働きかけ、会議の開催予定や活動経過を掲載しました。また、フォーラム等の取材協力を要請する等、協力関係を築きました。
- ・市政だよりに区民会議・各部会会議の開催予定を掲載しました。
- ・ホームページで全体会議開催の告知やテーマや審議内容を掲載しました。



地域情報紙などの原稿は、資料編P ～ に掲載

イ. 区民会議ニュースの発行

区民会議の情報を区民に届けるため、区民会議ニュースを全●回発行し、進捗状況などを周知しました。

体裁：A4 モノクロ

紙：色上質紙

部数：5,000部/回

配布先：町会・自治会（回覧）、区役所、図書館、
市民館、スポーツセンター、やまゆりなど

編集・印刷・発送準備：企画部会委員が担当



	発行時期	主な内容
第1号	平成24年10月	第1回・第2回区民会議全体会議報告
第2号	平成25年3月	安全・安心部会からのトピックス
第3号	平成25年7月	若者が～部会からのトピックス
第4号	平成25年10月	区民会議フォーラムの報告
第5号	平成26年2月	あさお子育てフェスタ開催案内

原稿は、資料編P ～ に掲載

ウ. 広聴活動

区民の提案意見を審議内容にフィードバックするため、次の広聴活動を行いました。

- ・区役所ロビーに提案箱を設置し、随時意見を受け付けました。
- ・区民会議傍聴者に対してアンケートを実施しました。
- ・区民会議ニュースの一部に意見欄を掲載し、随時意見を受け付けました。



(4) 区民会議フォーラム・あさお子育てフェスタの開催

各専門部会が企画検討した内容を、企画部会が中心となって調整し、開催日当日の運営や開催に向けての広報を区民会議委員全員で分担しました。また、参加者への区民会議活動の経過を報告するため、ブースを設置しました。

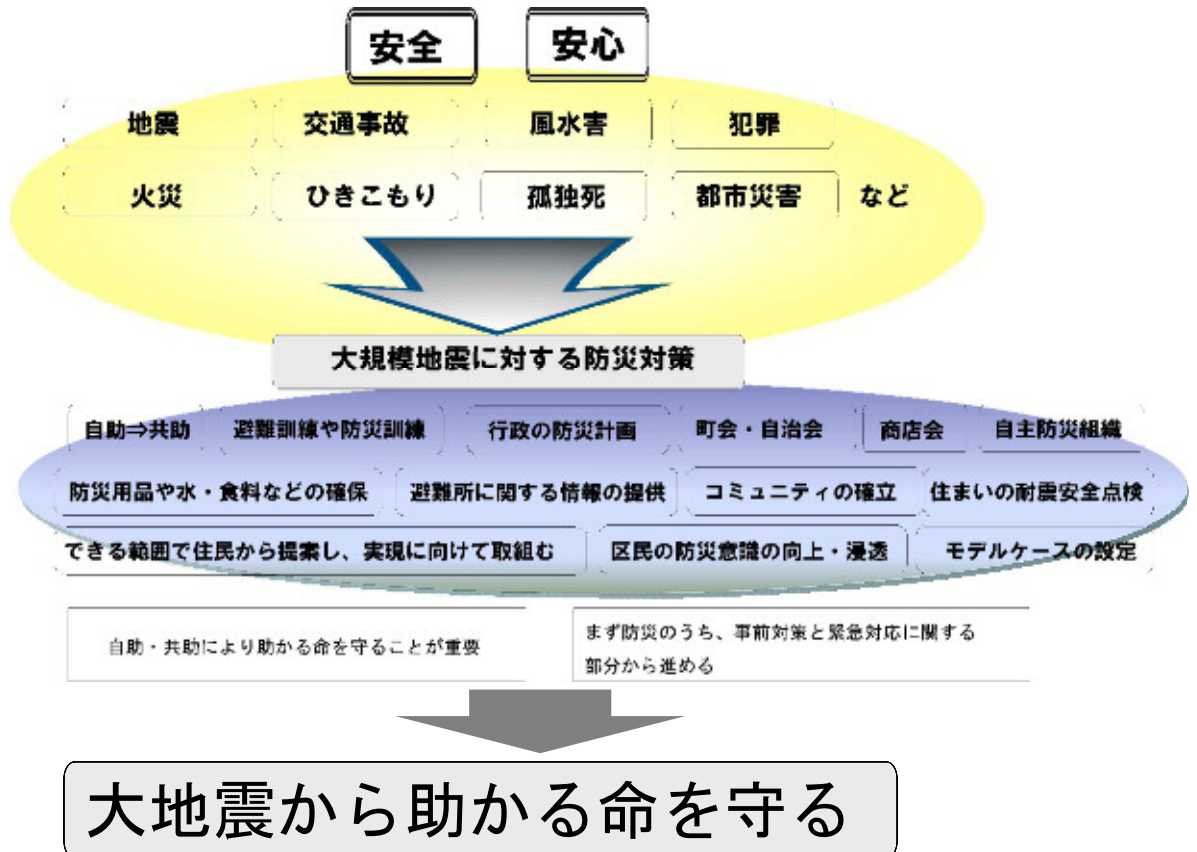
(5) 区民会議報告書の作成

各専門部会と連携し、約半年の期間をかけて、この「第4期区民会議報告書」の編集・作成に携わりました。

2. 安全・安心のまちづくり部会

(1) 調査審議テーマの方向性

「安全」「安心」の課題の中から、区民の関心が高く、区民の主体的な取り組みに繋がる「大規模地震に対する防災対策」に絞り、審議テーマを「大地震から助かる命を守る」としました。



(2) 検討経過

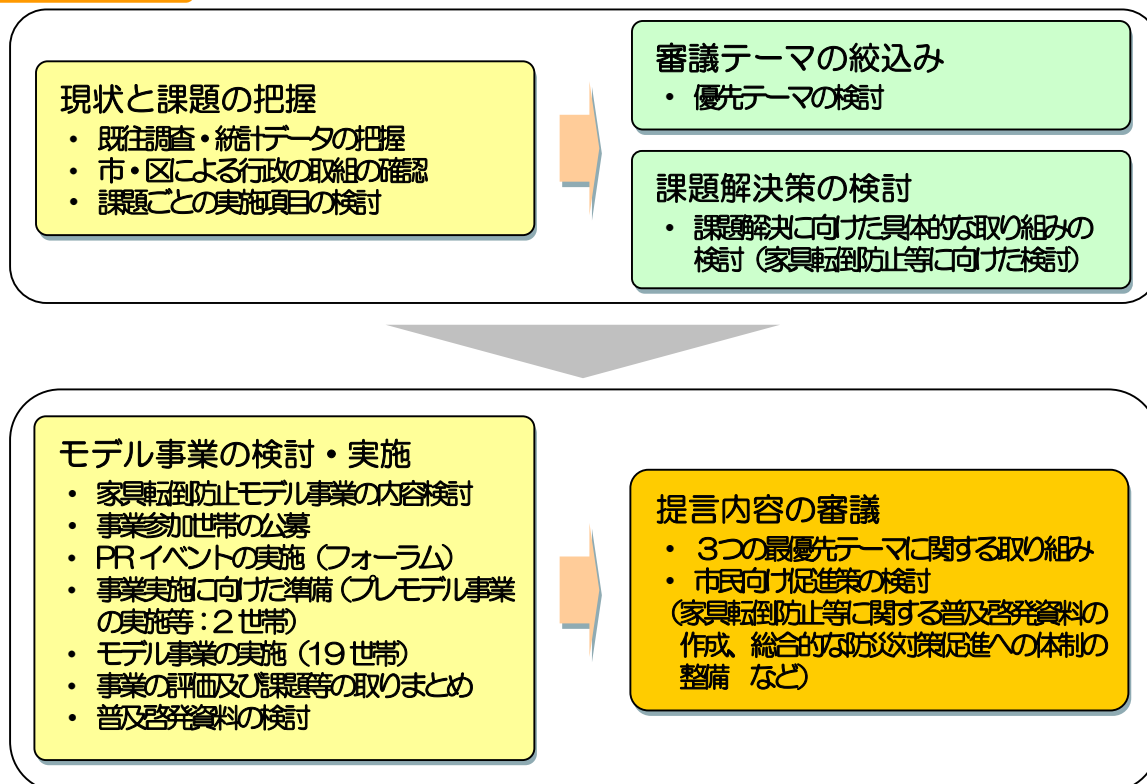
防災に関する数々の課題の中から、公助で行き届かない部分は何か、区民自らが考え取り組んでいける課題は何か検討するため、「川崎市地震被害想定報告書」「麻生区地域防災計画」などの統計データのほか、危機管理体制、防災教育、火災予防・消火対応、耐震促進、自主防災組織などに関する市・区による行政の取組を確認しました。

また、課題設定する上で前提となる大地震を「最大震度6強～6弱・発生時間は冬の平日18時」と想定しました。この大地震への対策を事前対策と緊急対応に分け、「自助」「共助」「公助」「企業市民」の項目別に、実施されている対策及び今後考えられる対策を洗い出しました（※1）。その中から区民会議として取り組んでいくべき具体策を、『麻生区内で想定される死者（※2）を0にすること』を目標に、「3つの最優先テーマ」、「2つの優先テーマ」に整理し検討することとしました。

※1 「具体策検討シート」（資料編●ページ）参照

※2 「川崎市地震被害想定報告書（平成25年3月）」より、麻生区では「火災死者26人、建物倒壊死者16人」と想定

検討フロー



3つの最優先テーマ

1 家屋の倒壊防止



- ・ 耐震補強が必要な家屋への的確な情報の提供とその解消
- ・ 耐震診断・耐震補強工事の実施の促進 など

2 家具の転倒防止



- ・ 家具・電化製品の固定化の促進、置き場所の見直し など

3 火災予防・火事発生への対応



- ・ 火災予防対策、消火活動に関する近隣地区での認識共有
- ・ 町会・自治会・マンション等での消火器の設置・共用 など

2つの優先テーマ



- 4 災害時に救援・援護を必要とする方々への対応要援護者等への対応
- 5 負傷者または生き埋め者の一刻も早い救助、手当、安全な場所への収容

(3) 区民会議フォーラム

部会での調査・審議経過を区民の皆様に報告し、防災に向けた取組を考え、行動するきっかけとなるよう、平成25年9月、「大地震から助かる命を守る」をテーマとした第1回区民会議フォーラム（第4章●ページ参照）を開催しました。明治大学園田教授から、安心して暮らすための知恵と心構え、東京大学教授目黒教授から、最優先テーマに関わる大地震に対する事前対策の必要性などをお話しいただきました。このフォーラムをきっかけに、後述のモデル事業に応募していただいた世帯もあり、防災についての区民の主体的な取組を考える良い機会となりました。

(4) モデル事業

大地震で想定される死者の要因のうち、最優先テーマに関わる「建物の倒壊」「家具の転倒」「火事」でその約9割を占めています。つまり、人的被害を防ぐには「わが家の安全対策」が最も大切です。「大地震から助かる命を守る」に向けて、地震防災対策に関する区民の主体的な取組を促進するため、3つの最優先テーマのうち「家具の転倒防止」を中心にモデル事業を実施しました。



内容

①目的

◆モデル事業の実施結果やそこから得られた成果を取りまとめ、普及啓発資料を作成し、区民への普及啓発を通じて地震防災対策に関する取組の促進につなげる。

②進め方

- ◆明治大学建築学科園田教授の監修のもと、モデル事業の進め方を検討。
- ◆モデル事業の成果を普及・啓発する際の区民の取組やすさなどを考慮。

③対象世帯の募集・決定（7～9月）

◆モデル事業対象世帯（マンション6戸、戸建て13戸）を公募により選定。

④プレ実施・説明会（10月）

- ◆本格実施前に、実施にかかる所要時間、工事範囲、世帯との調整内容などを確定するため、マンション及び戸建て各1戸に対し、事前調査・工事を先行実施。
- ◆プレ実施の内容を踏まえ、対象世帯全戸に対する説明会を開催。

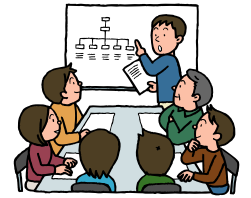
⑤事前調査・工事（11～12月）

- ◆専門技術者を含むグループが、各世帯を訪問し、住まい方や使用状況を伺いながら、転倒の危険度や世帯の希望に合わせた固定方法などを提案。
- ◆実際に家具固定工事を行い、工事前後の対象世帯の意識・認識についてのアンケート調査を実施。

【事前調査・工事の具体的内容】

- 実施体制：専門技術者、区民会議委員等の4～5名のグループ
- 施工の範囲：「命を守る」ことに必要な工事を行うことを前提とし、部屋や工事箇所数は限定しない。
- 工法の選択：区民が自ら取り組めるよう普及・啓発するため、技術的・工学的な合理性、材料の入手が容易か、施工が容易か、経済性を考慮して決定する。
- 金具類の選択：小さい電化製品等は工事の対象とせず、世帯が自分でできるような方法を伝える。専門技術者が調達する。
- 世帯との調整：事前調査時に金具サンプルを用いた説明をし、固定する家具類・移動場所・工法などの要望も把握。希望しない部屋は工事を実施しない。
- 世帯の協力：写真・映像撮影。アンケート記入。モデル事業実施要項に定めた様式（申込書、確認書等）の記入。※工事にかかる費用負担なし

結果



①工事実績（資料編●ページ）参照

- ◆実施戸数 19戸（マンション6戸、戸建て13戸）
- ◆実施期間 平成25年10月11日～12月21日（プレ実施を含む）
- ◆所用時間 1戸あたり2日、3～4時間（事前調査1～1.5時間、工事2～2.5時間）
- ◆参加者 11名（専門技術者3名、明治大学建築学科教授、明治大学学生1名、区民会議委員6名等）
- ◆施工家具合計 222個
- ◆施工数合計 439箇所
- ◆平均施工数 マンション11.2箇所、戸建て17.1箇所

②対象世帯アンケート結果

- ◆対象世帯数 19世帯（マンション6世帯、戸建て13世帯）
- ◆回収率 100%（19世帯）
- ◆調査結果（資料編●ページ）参照

参加した動機は「専門家のアドバイスが受けられる」が最も多く、日常生活での変化では「家具の転倒への不安感が減り、安心して生活ができるようになった」が最も多い。また、家具の転倒防止対策の促進への対応策としては「家具類の転倒防止器具の取り付けの斡旋・施工費用の補助などを市として制度化」が最も多く、参加者はほぼ全世帯から安心して暮らせるようになったとの工事担当者や行政への感謝の言葉が寄せられた。

③参加者意見（資料編●ページ）参照

- ・「施工」を受け持っていただいた専門技術者の方々に極めて協力的、積極的な姿勢で主体的に取り組んでいただいた。
- ・大型の置時計・ショーケースなど、L字金具で固定したくない物は突っ張りジャッキで固定し、見栄えが悪くならないよう壁紙を貼った目隠し板で隠すなど、対象世帯の希望に沿うための工夫と努力には素晴らしいものがあった。
- ・子ども・孫と同居している、水・食料の備蓄、自分で対策に取り組んでいる、家族に熱心な人がいる等、対象世帯には共通点があった。
- ・「何とかしなければと思うがどうしていいかわからない」「家具自体が重いからちょっとやそっとでは動かないだろう」と無理と思い、実施していないのが実情らしい。

④まとめ（資料編●ページ）参照

◆活動計画・実施体制について

- ・事前調査により作成した工事計画書を工事前に対象世帯が確認する時間ができたため、希望に応じた柔軟な工事ができた。
- ・1つずつ家具を確認する作業により、対象世帯のご家族自身が個々の家具転倒の危険性を知ることができ、安全な住まい方を考えるきっかけを提供できた。
- ・金具・材料の実物を見せ、家具の状況によっては、専門技術者から、複数の固定方法を提案したことで、対象世帯のご家族が家具固定を主体的に考えることができた。

各世帯の住まい方に合わせた満足度の高い家具転倒防止工事を実施するためには、事前調査を丁寧に行い、工事日程にゆとりを持たせた計画を立て、家具固定の知識や技術だけでなく、対象世帯への説明や対話ができる施工者が必要である。

◆固定方法について

- ・木製家具以外を固定する方法、金具やアイデア商品以外を使った固定方法、専用パールや下地探し器、家具固定に有用な材料など、一般的に知られていない知識を得ることができた。
- ・ホームセンターなどで簡単に安価に手に入る材料で、簡単に実施できる固定方法がある一方で、マンションの躯体壁へのビス打ちなど専門的な器具や技術が必要な方法もあり、工事の難易度に幅があることがわかった。
- ・マンションなど区分所有建物の場合には、工事箇所が専有部分か共有部分かによる取り扱いの違い、管理組合への届出や許可申請など、管理規約等に基づく手続きや制約があることがわかった。
- ・固定方法を提案する際に丁寧な説明をすることで、どんな震度でも絶対に転倒しないという保証はないことを前提に、納得の行く方法を選択してもらうことができた。

固定方法は、実施しやすいもの・施工の難しいものがあり、多様な方法の中から適当なものを、できれば複数選択する必要がある。

◆対象世帯について

- ・子どもや孫と同居しているなど、自分以外の誰かの安全を確保したいと考えることが防災対策への関心を高めることがわかった。
- ・防災対策への関心が高い世帯でも、なかなか関心が家具固定の行動に結びついていないことがわかった。

誰かのためと考えることが防災への関心を高め、具体策を提示することで関心が行動に結びつく。

課題・解決策

【課題1】

区民が家具転倒防止に取り組むためのきっかけづくり

【課題2】

適切な取り組みにつながる普及啓発資料の作成・活用

【課題3】

取り組みを推進する「組織づくり」「人材育成」

(5) 提言内容の検討

- ①モデル事業をもとにした普及・啓発資料の作成
- ②モデル事業以外の優先テーマの取扱

3. 若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会

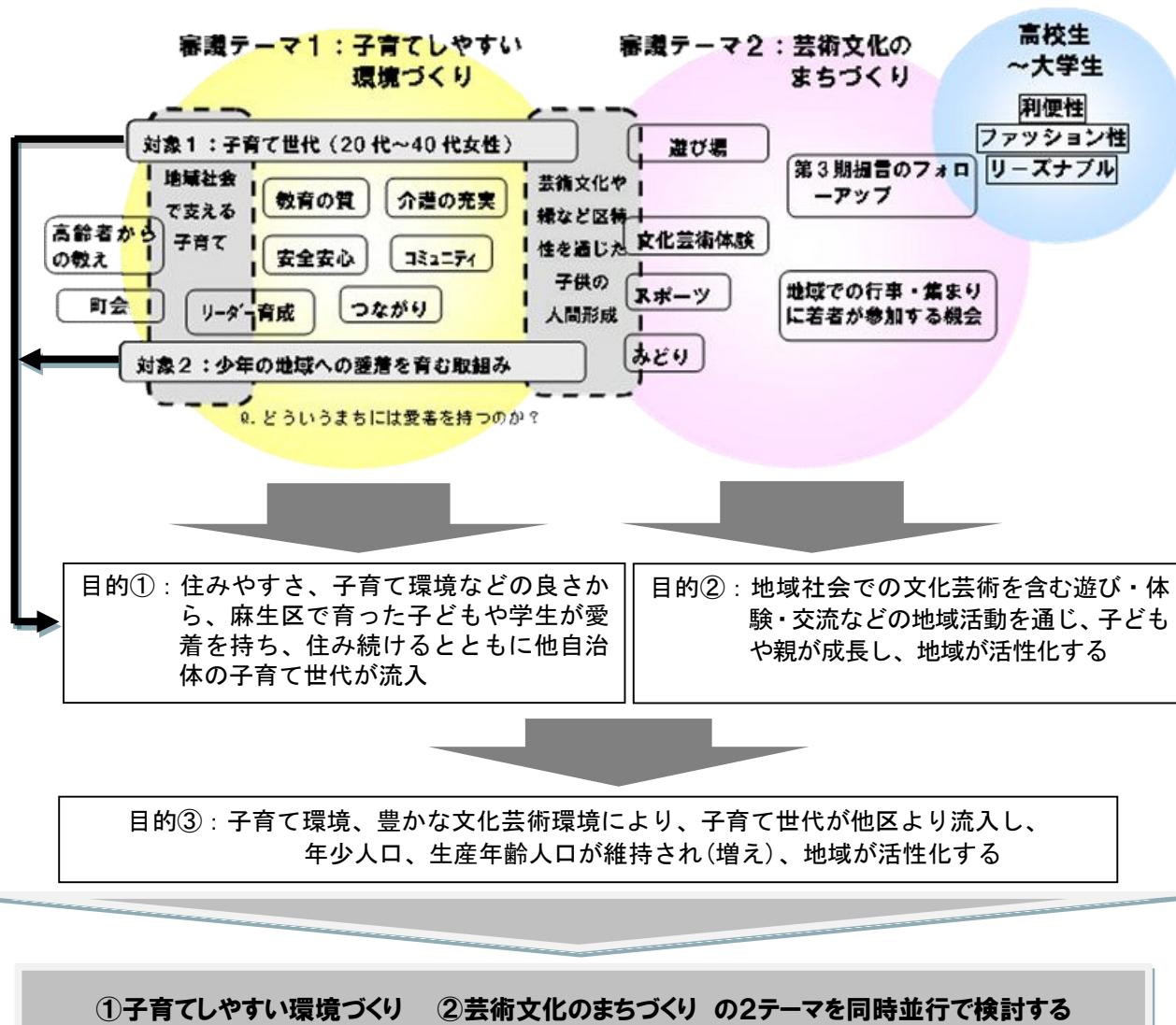
(1) 調査審議テーマの方向性

「若者」を広くとらえると、子どもから子育て中の 20～40 代まで幅広い年齢・世代が含まれますが、それぞれのまちの魅力に対する価値観も様々あると考えられます。子どもについては、地域に対する愛着醸成、中学生から大学生までは、まちの利便性やファッション性、リーズナブル性、子育て世代については、教育の質・地域のつながりなどの子育てしやすい環境づくりが必要などの意見が出されました。更に、高齢化・若者減少に備えて定住人口・生産年齢人口を増やすための施策検討が必要という視点から、子育て世代（20 代～40 代）を主な対象として、子育て支援に関する調査審議を進めることとしました。

また、区の特徴であり魅力である芸術文化の推進も、「若者が住みたくなる魅力あるまち」実現のための大切な要素であることから、第3期麻生区区民会議提言内容のフォローアップも含め、芸術文化のまちづくりについて調査審議を進めることとしました。

調査審議テーマの選定

「若者が住みたくなる魅力あるまち」



(2) 子育てしやすい環境づくり

1) 検討経過

子育て環境における現状と課題把握の第一歩として、川崎市の既往調査・データの整理を行うとともに、区に固有の現状・課題を把握するため、区民会議によるアンケート調査を実施しました。その結果から、「未就学児」に焦点を当てた「子育て世代を支援する多様な保育の展開」にテーマを絞り、子育てにおける早い段階から麻生区に定住してもらえる環境づくりについて検討を進めることとしました。

さらに、区内子育て団体6箇所へのヒアリング、および行政所管課へのヒアリングを行い、「子育て環境」における現状と課題をまとめました。

■既往調査の整理

- ・川崎市民アンケート（H23年10-11月）
- ・川崎市次世代育成支援に関するニーズ調査報告書（H21年2月）
- ・川崎市青少年意識踏査（クロス集計）（H22年9月）

■区民会議によるアンケート調査

- ・「こどもと一緒にコンサート」でのアンケート調査（平成25年2月）（72票）

未就学児の子育て世代を支援する多様な保育の展開

■ヒアリングの実施（平成25年4月～6月および9月）

- ・区内6つの子育て団体および行政所管課へのヒアリング

- | | | |
|-------|--------------|-----------------|
| 子育て団体 | ①地域子育て支援センター | ②子育て自主グループ |
| | ③子育てサロン など | |
| 行政 | ①こども支援室 | ②児童家庭課 ③生涯学習支援課 |



2) 現状と課題の把握

アンケート結果、および子育て団体へのヒアリングの結果、子育て現場の課題として以下が抽出されました。

川崎市子育てアンケート

■子育てで困っていること【上位3位】

- 第1位：安心して遊べる場所がない
- 第2位：交通機関や建物がバリアフリーではない
- 第3位：子どもの犯罪被害

■子育てを楽しく行うためのサービス【上位3位】

- 第1位：子どもを遊ばせる場や機会
- 第2位：親のリフレッシュの場や機会の提供
- 第3位：子育て中の親同士の仲間づくり

こどもコンサートアンケート ※1

■子育てで困っていること【上位3位】

- 第1位：保育園がいっぱいで入所できない
- 第2位：いざというときに子どもを預かってくれる人がいない/保育料や教育費の経済的負担が大きい

■行政に期待すること【上位3位】

- 第1位：近くで遊べる公園や広場の充実
- 第2位：子どもと遊べるスポーツ・芸術・文化各施設や活動の充実
- 第3位：保育園の受入定数の拡大

抽出課題項目一覧 ※【 】は課題のキーワード

A 子育て支援・保育サービス【安心・助かる】

●サービス時間の延長や土日の開館など、不足の声が挙げられている。

B 預けられる場所・病後児保育【安心・助かる】

●現行システムでは、前申請が必要だったり、緊急で預けられる施設がない。

C 子育て相談

●平成25年7月より児童家庭課に保育士が設置されており、相談業務を展開している。

D 公園・遊ぶ場所【助かる・楽しい】

●家族が楽しく遊べる公園や、安心して遊べる場所がない、という意見が多い。

E 情報発信【安心・助かる】

●子育て支援の情報不足、情報の錯綜などが挙げられている。

F 親同士の交流【安心・楽しい】

●親同士が気軽に集まれる場所が欲しいという意見がある。

G 保育園・文化施設【安心・助かる】

●保育園は1800人が定員、来年270人増となる。保育ママ制度実施。

H 児童虐待等支援の必要な児童への対応【助かる】

●虐待件数の比率は年々増加傾向。未就学児より小学生～中学生

I 子育てと仕事の両立【楽しい・助かる】

●子育てと仕事の両立できる仕組みづくり、イクメンの関心が弱い

J 保育人材【助かる】

●子育て活動の現場での人材不足。自主保育グループの活動は責任が重い。

K 保育活動団体【助かる】

●公園の遊具が少ない。活動場所が毎回変わるので疲れる。プレイパークづくりのた

※1「こどもコンサートアンケート結果」(資料編●ページ)参照

※2「子育て支援団体及び行政へのヒアリング結果」(資料編●ページ)参照

3) 課題解決策の検討

子育ての現場から多くの課題が挙げられた一方で、区内では行政や子育て団体等による多種多様な支援がきめ細やかに実施されていることもわかりました。

これらの情報や支援策が区民に広く行き届き、安心して楽しみながら子育てをしていただける機会を提供する場が必要と考えました。そこで、子育てフェスタの開催を提案することを視野に、方向性・内容を検証するため、モデル事業「あさお子育てフェスタ」を実施しました。

(3) 芸術文化のまちづくり

1) 検討経過

芸術文化活動によるまちの魅力アップ推進のため、第3期区民会議からの提言が具体的に行政においてどのように審議・実現のプロセスにあるのかフォローアップすること、

芸術文化団体10箇所及び行政所管課へのヒアリングを行い、「若者が住みたくなる魅力あるまち」実現のための、課題の把握を行うこととしました。

■ 調査審議課題

1) 3期提言のフォローアップ

- ①文化担当官の設置 ②(仮称)麻生文化会議の設置
③川崎市都市景観条例の見直しと弾力的な運用

2) 若者が楽しめる・住みたくなる芸術文化のまちづくりに向けた課題の把握



■ 既往調査の整理(平成25年2月~5月)

- ・新百合ヶ丘地域活性化委員会の報告書(平成24年3月)
- ・「新百合ヶ丘駅周辺の芸術のまちづくり」に関するアンケート(平成24年3月)

■ ヒアリングの実施(平成25年5月~8月)

- ・麻生区をフィールドとしている芸術文化団体および行政所管課へのヒアリング

芸術文化団体 ①麻生文化協会 ②日本オペラ振興会 ③民藝 ④区内大学
⑤麻生フィルハーモニー ⑥麻生合唱団 など10箇所

行政 ①市民文化室 ②川崎市文化財団 ③麻生区役所 ④麻生市民館

2) 現状と課題の把握

既往調査やヒアリングの結果、芸術文化活動の現場における課題として以下が抽出されました。

ヒアリング結果(芸術文化団体10団体、市民文化室、川崎市文化財団、麻生区役所、麻生市民館) ※3

1) 第3期区民会議提言内容についての意見

- ①**文化担当官の設置・(仮称)麻生文化会議の設置**: 関連団体・行政ともに、文化担当官(コーディネーター)および文化会議設置については原則、賛同しているが、どこが(だれが)担うべきか、どのような組織とするか、担うべき業務などについての意見が分かっている。
- ②**情報発信・活性化(景観条例見直し)**: (行政: 提言を受けて) 景観条例の一部見直し、駅コンコースの柱にポスター設置への働きかけなどの取組みがスタートしている

2) 若者や子供など多くの市民が楽しめる芸術・文化のまちづくり

- ・子供といっしょに楽しめる催しがいろいろ開催されているにもかかわらず周知されていない状況。

3) 活動上の問題点、川崎市や麻生区への要望(芸術・文化関連団体)とそれに対する意見(行政)

- ・活動団体の練習場所の確保やホール整備の問題が挙げられているが、市民館の建て替えやホールの設置などハード面の整備は、難しい状況である。団体の活動方針・内容によって必要な設備(防音など)、広さも様々である。

4) 「しんゆり・芸術のまち」の今後の展開、施策の方向性について

- ・「芸術のまち」としての麻生区の地域ブランドを確立し、商業者とも相談して情報発信を図る等。

※3 「芸術文化団体及び行政へのヒアリング結果」(資料編●ページ)参照

3) 課題解決策の検討

①第3期区民会議提言のフォローアップ

(ア) 文化担当官の設置・(仮称)麻生文化会議の設置

ヒアリングの結果、関連団体・行政ともに、文化担当官及び(仮称)麻生文化会議の設置については原則賛同を得られました。しかし、役割を担う機関・部署の選定、組織・業務の内容について意見がわかれており、具体化には至っていません。そこで、文化担当官の具体的な姿、担うべき役割・業務や(仮称)麻生文化会議の設置目的・組織・活動の方向性や内容等を示し、実現に向けて進めることとしました。

(イ) 川崎市都市景観条例の見直しと弾力的な運用

新百合ヶ丘景観特定地区の景観形成基準については、25年7月にパブリックコメントが実施され、26年6月に改正が行われました。これにより、これまで原則禁止となっていた立看板、広告旗(のぼり)、広告幕は、イベント開催などに際し、期限を設けて設置が可能となるなど、規制が緩和されました。今後、積極的にこれを活用してイベントの広報が行われ、まちににぎわいが創出されることが期待されます。そのためには、景観形成基準が緩和されたことについての周知や、広報物を掲示するための手続きをまとめるなど、地域へわかりやすく示す必要があると考えます。

②若者が楽しめる・住みたくなる芸術文化のまちづくりに向けた課題の把握

ヒアリングの結果、区内では子どもと一緒に楽しめる芸術・文化の催しがいろいろ開催されているにもかかわらず周知不足である状況が浮き彫りになりました。

今回は、子育てしやすい環境づくりで検討している20代~40代にフォーカスし、モデル事業「あさお子育てフェスタ」の場を活用して、提言の方向性・内容を検証することとしました。

(4) あさお子育てフェスタ (モデル事業)

1) 企画概要

タイトル あさお子育てフェスタ

キーワード 子育てするなら麻生区で~安心・楽しい・助かる~

コンセプト 子育て中の親子が参加することで、キーワードを体験・体感し、交流し、情報を発信・収集することのできる一つの機会を提供します

日時 平成26年4月13日(日) 10時半~15時

場所 麻生区役所第1~5会議室、ロビー、区役所前広場、保健所予防接種ホール、レストランあさお

内容 区内子育て団体等の活動紹介・案内(「安心・助かる」)

子育て情報・相談コーナー(「安心・助かる」)

子ども用品フリーマーケット(「楽しい・助かる」)

各種遊びの広場 ミニコンサート(「楽しい・助かる」)など

運営法式: 地域の子育て団体および区民会議(協力46団体)

2) アンケートによる提言内容の検証

「あさ子育てフェスタ」を提言として精査するため、当日は、①フェスタについて、②子育てにおける必要な支援について、③芸術文化のまちづくりについて、という項目でアンケートを実施しました。その結果、.....

アンケート結果

- ・あさ子育てフェスタの有用性
- ・あさ子育てフェスタプログラムの精査
- ・求められる子育て支援
- ・芸術文化のまちづくりについて

第4章 区民会議フォーラム・あさお子育てフェスタについて

1. 区民会議フォーラム ～大地震から助かる命を守る～

第4期麻生区区民会議の「安全・安心のまちづくり部会」の目標である「大地震から助かる命を守る」をテーマに、区民会議フォーラムが平成25年9月7日（土）に開催されました。

はじめに、第4期区民会議における3つの専門部会の区民会議委員の紹介がなされ、その後各専門部会における具体的な取り組みの経過について報告がありました。

引き続き、今回の区民会議テーマである「大地震から助かる命を守る」に関する学識者による講演が行われました。

会場内には各種の展示ブースが設けられ、区民会議の紹介や様々な家具転倒防止器具の展示、区民レベルで実施されている大地震対策に関するパネル展示、区内における地域コミュニティづくりへの取り組み事例、防災関連の参考書籍などが紹介されました。

◆開催期日 平成25年9月7日（土） 午後1時30分～4時45分

◆開催場所 川崎市麻生区役所4階第1・2会議室

◆当日プログラム

委員長あいさつ

区民会議報告（所属委員の紹介と活動内容等に関する報告）

- ① 企画部会（田中副部会長）
- ② 安全・安心のまちづくり部会（村主部会長）
- ③ 若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会（石井部会長）

講演：園田真理子氏 「いざという時の備えは、日ごろの安心から—その知恵と心構え」

講演：目黒 公郎氏 「大地震に備えて、私たちはどのように取り組むべきか」

◆参加者人数

153人（区民会議関係者等を含む）



区役所入口の看板



委員あいさつ



会場の様子



家具固定器具の展示



展示ブース



区民会議の展示

◆講演内容（抜粋）

「いざという時の備えは、日ごろの安心から—その知恵と心構え」

明治大学教授 園田眞理子氏



- 高齢者・子どもたちが暮らしやすい住環境に関して研究を進めています。「東日本大震災」の体験から実際に本棚などの転倒を経験し、壁などに家具類を固定するという区民会議の「安全・安心のまちづくり部会」での取り組みは大変重要なことと実感している。
- 家族力などソーシャルキャピタルのある人は次の行動がとれるが、ない人は次の行動に移れない。最大の「弱者」は、このような「もの言わぬ・言えない人」であり、その人達の思いを感じ取る力が必要です。
- コミュニティという単位の中での個人関係が希薄化しており、人と人のつながりをどうしていけばいいのかが問題となっています。
- 大学では、孤立しないで安心して住めることを目標に、住民と学生が一緒になって地域を支える活動「たま・みた・まちもりプロジェクト」に取り組んでいます。
- 未曾有の災害に備えるためには、日常的な中での備え・心構えをしておくことが重要であり、①経験や問題などの共有化、②居住者の主体的な活動とネットワーク化、③地域力・仲間力の醸成とネットワーク化等の取り組みが「まちおこし」に必要です。

「大地震に備えて、私たちはどのように取り組むべきか」

東京大学教授 目黒公郎氏

- 地球のハザードに関するハード・ソフトの両面から戦略的な対策について研究を進めています。
- 人々の生活を取り巻く自然環境特性（地形・気候…）や社会環境特性（政治経済文化…）などのシステムに、自然現象の地震・津波のインプットが加わり、ある時期にある基準を超えた時に初めて被害・災害というものになります。
- 防災において非常に重要なことは災害イマジネーションであり、場所・時間・役割り・施設・天気・持ち物などを考えた時に、自分の周りで何が起きるのかを具体的に想像できなければ、災害への対応はできません。
- 防災対策を実現するためには、まずは自分の生命と安全を確保して、家族、地域・・・の順で対応することです。
- 首都圏でより重要なことは揺れへの対処、耐震補強。激しい揺れに対してどれだけ被害を抑止できるかの能力がなければ、事後対応では救える命も非常に限定的です。阪神・淡路大震災の時には、犠牲者の83%が建物倒壊・家具等で圧死しました。
- 皆さんに実施していただきたいことは、災害イマジネーションを向上させて、地震が発生するまでの時間を有効に活用していただくことです。世の中にある家具転倒防止器具はその効果が様々ですが、より有効な器具を用いることが大切となります。

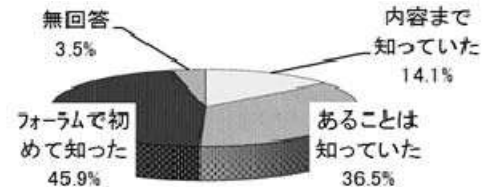
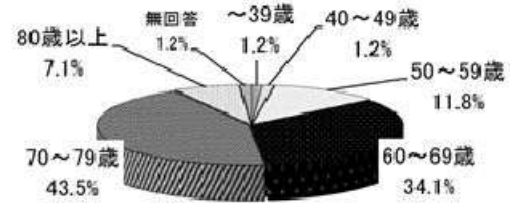


◆アンケート調査結果（回答数 85 票）

○参加者について

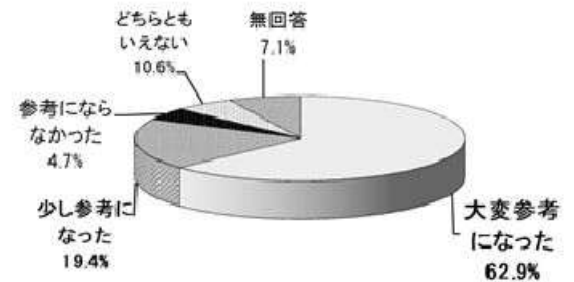
フォーラム参加者の約85%が60歳以上の方でした。地域問題に関心が高く、経験豊かなこの層の方々の力をいかに取り込んでいくかが、今後の区民会議の課題と考えます。

また、認知度調査では、半数近くの方が区民会議を「フォーラムで初めて知った」との回答でした。フォーラムを通じて、多くの方々に区民会議の存在を知って頂くことができました。



○講演内容について

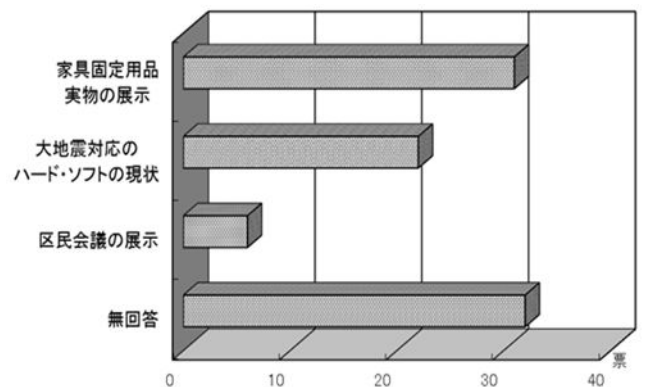
「大変参考になった」との回答が約63%で、次いで「少し参考になった」が約19%、約8割強の方が参考になったと回答しました。



○展示ブースについて（複数回答）

参考になった展示ブースを尋ねたところ、「家具固定器具実物の展示」への回答が31票で最も多く、次いで「大地震対応のハード・ソフトの現状」の22票でした。

自由記述では、「初めて見て参考になるものばかり」という意見がありました。



○自宅での防災対策について（複数回答）

日頃行っている防災対策について尋ねたところ「飲料水や非常食の準備」という回答が63票と最も多く、次いで「家具や電化製品の転倒防止」の50票となりました。

一方で、「家族間での緊急時の連絡手段や避難先の取り決め」や「ガラスの飛散防止」の票が少く、家庭内での対策が浸透していないことがわかりました。

飲料水や非常食の準備	家具や電化製品の転倒防止	消火器・消化用品の設置	住宅用火災警報器の設置	防災グッズの準備	防災訓練への参加	家屋の耐震性確認	家族間の連絡手段	ガラスの飛散防止	緊急連絡カード	その他
63	50	47	45	38	25	23	17	16	10	1

○自由記述欄

- ・孤独老人の実態がなかなか掴めなくて困っています。考え方の参考になりました。
- ・団地でなく戸建て住宅街でも空家が目立ち、長期間住んでいない家も増えています。コミュニティの拠点となるカフェの事例は、参考になりました。
- ・聞いたかったのはこれだ！！「常識」に惑わされるな！という考えは大変有効。
- ・もっと多くの人に聞かせたかった。他所で今日の話伝えたい。
- ・今回、初めて参加しましたが、機会があったら次回も参加したいと思いました。

資料編（仮）

目次

1. 第4期区民会議委員・参与名簿
2. 第4期区民会議の活動の記録（年間スケジュール）
3. 第4期麻生区区民会議関連資料

安全・安心のまちづくり部会より

- ・「大地震から助かる命を守る」ための具体策検討シート
- ・モデル事業の工事实施計画書のサンプル
- ・工事实施結果の取りまとめ、工事施工写真
- ・モデル事業対象世帯へのアンケート結果
- ・モデル事業参加者の意見（モデル事業を振り返って）
- ・モデル事業のまとめ
- ・普及啓発資料目次

若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会より

- ・アンケート結果（子どもと一緒にコンサート）
- ・各団体などへのヒアリング調査結果

4. 区民会議ニュース、広報紙・地域情報誌記事
フェスタやフォーラムのチラシ含む